

# 産業建設常任委員会 意見交換会報告

令和5年12月22日（金）

去る11月20日開催の白山農業協同組合との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は、白山農業協同組合（以下、JA白山と呼ばせていただきます。）の代表理事組合長をはじめ4名の役職員の方々が出席され、有機栽培をはじめとする「農産物の差別化」、「後継者不足」及び「鳥獣被害」というテーマについて、冒頭にJA白山から説明を受け、意見交換をしました。

まず、JA白山営農事業の課題として、他の農協に比べ農業施設が多い反面、刈取面積が少ないことにより施設稼働率が低く、かつ施設の維持・更新が負担となっていること、管内の園芸部門は多品目かつ少量生産のため、営農指導担当者の確保・育成が難しいこと、有機栽培や減肥・減農薬栽培

を中心に特色ある水稻・園芸に挑戦していきたいが、有機栽培におけるJAS表示など課題が多いことなどが挙げられました。

次に、管内の農業の現状として、農家の高齢化と後継者不足が課題であり、特に中山間地においては数年後に耕作放棄地が増加する可能性が高いこと、イノシシや猿など鳥獣による農作物の被害が増加傾向にあるため、さらなる市の支援を必要としているとのことでありました。

それでは、今回の意見交換会で出された主な意見を述べさせていただきます。

J A 白山におきましては、国が示しているみどりの食料システム戦略に基づき、将来的には有機栽培の必要性に迫られる中で、ある程度の面積を確保して水稻を計画しているとのことですが、有機栽培の条件を定めるJAS法が重くのしかかっており、非常に厳しい状況であるとのことです。

このことを踏まえ1点目、JAS法には

認められなくても、無化学肥料・無化学農薬で作った農産物であるということを、市が何らかの形で担保・支援する仕組みづくりをお願いしたいとの意見がありました。

2点目、有機栽培は場所的な条件の制約や軌道に乗るまで長い年月を要するため、安定した価格、消費者が満足する食味に追いつくまでの収入についての保証が必要との意見がありました。

3点目、農家が有機栽培に取り組みやすくするための農機具等の購入に対する市の補助制度を設けてほしいとの意見がありました。

4点目、所得が不安定なことが後継者不足の最大の要因であり、農業生産者・新規参入者に対する市からの政策的なバックアップがないと、農業後継者を育てていくことは難しいという意見がありました。

以上、主な意見を述べさせていただきましたが、有機栽培はSDGsの観点等から

も大事な取組の一つであることは間違いありません。

有機栽培を推進する上で、非常に条件が厳しいJAS認証に代わる、市独自の認証基準を設けるべきと考えます。

また、有機栽培を推進するにあたっては、市として取り組むという姿勢やしっかりとした方向性を示すことが重要であり、出口戦略としてまずは学校給食を起点に特別栽培米の取組を継続させるなど、市がかじ取りをする中で、市と農家・農協とがうまくタイアップしながら有機栽培をアピールしていくことで、農家の収入が増え、ひいては後継者不足解消の一つの方法になるのではないかと感じました。

結びに、有機栽培の推進に向け、市として前向きに検討していただきたい旨を申し上げ、産業建設常任委員会委員長の報告とさせていただきます。